

第6章 「語源力」の道具たち

英語の勉強をしているみなさんは、英語の辞書を持っていらっしゃると思います。それが電子辞書である場合も多いでしょう。

でも、自分の辞書が、どんな特徴を持っていて、どんな使い方をすれば効果的かを知っている方は意外に少ないです。

電子辞書になると、その数はもっと少なくなります。

どんなコンテンツ（辞書、参考書）が搭載されているのか、その辞書はどんな特徴があるのか、英和辞典は何が入っているのか、英英辞典は...？

電子辞書を買うときに、ふつうはこういったことにまで、あまり気を配りません。筆者の電子辞書には『ジーニアス英和大辞典』が入っています。紙の辞書では「大辞典」というと、重く、大きく、荘重、つまり、英語の苦手な人には、「大辞典」は敷居の高いものというイメージがありますが、「大学生用」とか「英語学習用」と銘打ってある電子辞書には「大辞典」が入っていることも多いのです。自分の使っている辞書が大辞典と気づかずに使っていることもしばしばあります。

電子辞書をお持ちの方は、この章を読みながら、自分の持っている電子辞書にはどんなコンテンツが入っているのか確認をすることをお勧めします。（大辞典の使いこなしについては第8章で詳しくお話しします）

(1) 語源 / 英語の勉強に何が必要か？

この章では、辞書を利用し、語源を手がかりにしながら、「ホンモノの単語力」、「使える単語力」を身につけるためのさまざまな道具（紙の辞書、電子辞書）についてお話していきます。

辞書は、それぞれ特徴があるので、自分の目的や英語力にあわせてうまく選べるとよいですね。

以下、辞書の特徴を説明しながら、さまざまな辞書を取り上げていきますが、何もすべて買いそろえる必要はありません。

「**英和辞典1冊 + 英英辞典1冊**」が基本です。

語源情報が出ていれば、今持っている辞書でかまいません。（後述しますが、お勧めは『ライトハウス英和辞典（第5版）』（研究社）初級～中級向け）

英英辞典は、電子辞書をお持ちなら、そこに入っているもので構いません。そうでない場合は、

- **コウビルド英英辞典 (Collins Cobuild Advanced Learner's English Dictionary)**
- **オックスフォード現代英英辞典 (Oxford Advanced Learner's Dictionary : OALD)**
- **ロングマン現代英英辞典 (Longman Dictionary of Contemporary English : LDCE)**

のうちの、どれかを手に入れるとよいです。この3冊は日本の出版社からも発売されており、使い方の日本語による解説がついています。また、CD-ROMやDVD-ROMがついているので、パソコンで使うこともできます。どれも中級から上級の辞書です。